

毎週日曜発行
2017 7/16

こども新聞 週刊がほピョン

河北新報社 TEL.022-211-1111(月曜から金曜)



どうして・なんで・なぜ

仙台七夕はどうして8月なの？

かほピョンは仙台のことをもっと知りたいんだ。豪華な飾りで有名な仙台七夕まつりは毎年8月6～8日だけど、全国的に七夕は7月7日。きょうは「仙台七夕はどうして8月なの」だよ。

まつりを主催する仙台七夕まつり協賛会のメンバーで、市内の七夕飾りを多く手がける鳴海屋紙商事の鳴海幸一郎さん(49)に聞きました。

「まつりを仙台に広めたのは伊達政宗といわれています」と鳴海さん。「当時は古い暦(旧暦)

の7月7日に行われました。現在の季節感に合わせるために1カ月遅れになるので、8月に開いています」



太平洋戦争で一時途絶え、地元の商人たちが戦後復活させました。「空襲で焼けた街をよみがえらせようという、心意気だったのでしよう」と振り返ります。吹き流しに丸い「くす玉」をつける習慣も生まれ、経済の発展とともに飾りは豪華さを増していきました。

「2011年から、仙台の公立小中学生全員が七夕に参加しているんですよ」と鳴海さん。詳しく聞きました。

東日本大震災で大きな被害を受けたこの年、市

内の小学校長らから「復興への願いを込めた七夕飾りを、未来を担う子どもの手で作れないか」と相談が持ちかけられました。「みんなで折った鶴を飾ろう」と話し合い、準備に駆け回ったそうです。

足りませんでした。中越パルプ工業が竹製の紙を大量に贈ってくれました。鳴海屋で裁断し、市内の全公立小中学校へ配布。児童生徒全員が、思いを込めて鶴を折りました。

教職員や保護者がくす玉を作り、8万羽もの鶴をつないで「星に願いを」と題した見事な七夕飾りに。つるす場所は百貨店の藤崎が提供しました。



完成を見届けた鳴海さんは、感動で涙があふれたそうです。当日は、大勢の人が足を止めて美しい飾りに見入りました。このプロジェクトは毎年続けられ、新たな伝統となりつつあります。

鳴海さんの夢は「商店街に仙台の全小中学校のオリジナル七夕飾りをつくること」だって。伝統を未来へつなごう。



復興を願い児童生徒が折った8万羽の折り鶴で作られた七夕飾り
=2011年8月6日

もっと知りたい 古里のヒミツ

6

旧暦で開催小中生も参加

こどもの紙面

2 イマ★どき

3 3分チャレンジ

4・5 いいね

小学校

6 英語

7

かほくワークシート

8 中学生の相聞歌

今週の注目ニュース

◇18日(火) デフリンピック(～30日、トルコ・サムスン)
耳の不自由な人たちの4年に1度の国際スポーツ大会。日本は陸上、水泳など11競技に108選手が出場する予定だよ。

◇22日(土) アスタナ国際博覧会(万博)「ジャパンデー」(カザフスタン)
万博は「未来のエネルギー」をテーマに6月に始まり、9月まで開かれる。この日は日本文化などを紹介するイベントが行われるんだ。